

験を伴った知識の習得が少なくなってしまうこと、教員は指導力以外に機械に関する知識や操作能力が要求されるので、授業内容にバラツキが生じることも課題となっている。教科別の計画を作成するとともに研修会を充実させ、教員の指導力の向上を図る中で、有効活用、メリット、デメリットを検証しながら検討していききたい。

英語力向上には、英語を学ぶ楽しさを体感できるプログラムや交流活動を通して自分の進路や将来の生き方を考え、人材育成を図る取り組みを計画していきたい。

CSについては、保



小学生と民生児童委員のふれあい給食会

**運動部活動と  
選手育成について**

・小・中一貫教育に本格的に取り組んでおり、今後も地域とともに歩む学園として、特色ある学園づくりを一層進めていきたい。

**一山議員**

運動部活動で外部指導者の導入が進んでおり、生徒の競技力向上や教員の負担軽減など顧問のサポート役として、期待されている一方で教員との意思疎通がうまく図れないケースも見られ、課題も浮かんでいます。県教委も導入を推進し、スキルアップを図っているようです。方針が一致しなかったり、外部指導者に過剰な負担が掛かるケースもあり、学校と顧問、外部指導者が目的を話し合い部活動の充実につなげてほしいとの要望もあるが、小・中学校での指導状況はどのようになっているのか、現状のままで行くのか、外部指導者の導入が進んでいるところもあるが見解を伺います。

県教委の運動選手育成では、育成プログラムに注目し、体力テストで高評価を得た小4、中1年生を対象に講習会を開き、資質や適性のある競技を見極めるようですが、県教委の運動選手育成プログラムについての見解を伺います。

**峯野教育長**

小学校のスポーツ少年団の活動は、保護者や外部指導者が行っており、中学校の部活動は担当教員が指導し、一部外部指導者が行っています。児童生徒数が少なくなると、スポーツ少年団の運営維持が難しく、中学校の部活動は単独で運営が困難な部活が出てきて、近隣町とも協議しながら、スポーツ活動を行える機会を確保していきたい。

外部指導者の導入については、基本的に教員が指導することを考えていますが、種目により、教員が指導困難な場合は、外部指導者の指導補助も考えられます。中学校の部活動には、教員による指導が必要で大切であると考えています。教員の負担が大きいことも現実です。今後、部活動のあり方と併せて協議を行いたい。県の育成プログラムは、子ども達にとっても、自己の能力や可能性に付き、将来に夢を持って成長できる取り組みであり、参加の要綱等が届いたら、子ども、保護者に情報発信をしていきたい。

**ふるさと納税に関して**

**森 定雄 議員**

遠く離れたふるさとを応援しようとする人や企業、または各地域の特産品を目標とした個人の方などから広く寄付金を募り、活気あるふるさとづくりに役立てることを目的として、去る2008年に公布された「ふるさと納税」制度ですが、この制度をうまく活用することができれば、寄付を望めるだけでなく、特産品のアピールにもつながります。積極的に運用してい